

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

● 謝辞

今回、「山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース)」よりご支援をいただいたことで、私の夢であった留学が実現いたしました。この場をお借りしまして感謝の意を表します。また、本留学活動に関わりお世話になりました全ての皆様に心より御礼申し上げます。

● 報告書概要

1. 初めに
2. 留学中の活動内容
 - 2-1. 生活面
 - 2-2. 学業面
3. 学んだことを今後どのように活かすか

1. 初めに

私はアメリカ合衆国ケンタッキー州、リッチモンドにあるイースタン・ケンタッキー大学へ2セメスターの間、留学をした。本留学の目的は、語学力向上と異文化理解、有限な資源やエネルギーについての考え方、それらに関する問題へのアプローチの仕方の違いを学ぶことである。現在、地球温暖化や枯渇性資源等の問題を巡り、再生可能エネルギーに注目が集まっている。環境に優しい製品開発に向けて、クリーンで地球上に潤沢な材料の利用や、エネルギー変換効率を高める工夫は欠かせない。そこで、太陽光エネルギーを効率よく化学エネルギーへと変換する技術に関する研究を行っている、イースタン・ケンタッキー大学 Judith L. Jenkins 助教授の元で、カチオン交換を利用し、硫化亜鉛ナノクリスタルに対する銅の添加量をコントロール制御する研究に参加し、ナノクリスタル合成技術や測定技術、ノウハウの習得を具体的な目的とした。留學生活を通して学んだことを以下に記す。

2. 留学中の活動内容

2-1. 生活面

私は、海外旅行をしたことがなく、留学前の異文化に触れる機会は、留学生との関わりやアルバイト先での旅行者との会話であった。見聞きするものは刺激的なものばかりで、留学に対する思いは、不安よりも期待の方が大きかった。しかし、実際に日本から出てみると価値観や考え方の差が激しく、周りの環境に自分を適応させるために常に気を張りながらの生活となった。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

授業が始まるまで、私の友人が紹介してくれたホームステイ先にお世話になった。ホームステイ先の方々が空港で手作りのメッセージを掲げながら、笑顔で迎え入れてくれたことが私の初めてのアメリカでの思い出である。空港を出てからは、全てが私にとって新鮮で恐怖や不安と期待で景色を楽しむ余裕もなく、常に英語に囲まれる生活が始まった。自分の英語力の低さに絶望し、自分のペースで英語を学んでいた日本での勉強方法が生温いものであったかを痛感した。アメリカの生活様式は日本と異なり、どの行動が失礼にあたるのかを知る必要があった。しかし、留学当初は英語力が低く、コミュニケーションがうまく取れなかったため、空気を読みながらの緊張感のある生活となった。しかし、ホームステイ先の方々がかけてくださり、授業が始まる前にアメリカの生活を体験でき、忘れられない思い出となった。

学校の手続きでいくつかミスがあり、それらを自身で解決していく中で、自分の置かれている状況と要望を的確に伝えることが出来ず、歯がゆい思いをした。しかし、英語力が低くても自分の意見を主張し積極的に行動することで、周りの人々が私を理解しようとしてくれた。この経験が自分を主張していくきっかけとなった。留学期間中はなるべく一人の時間を作らず、友人と過ごすように心がけた。また、イベントがあれば積極的に参加した。アメリカに来てから一瞬たりとも退屈だと思ったことはなく、アメリカでの生活の全てが私にとって良い思い出である。ハイキングや movie night、カフェを貸し切り、一から計画した友人のサプライズパーティー、友人の家での Halloween party、International conference でのパフォーマンス、友達と長時間ドライブで行った1週間の旅行、ホストファミリーと過ごしたクリスマスなど、ここに挙げきれないほどたくさんの貴重な経験ができ、感謝の気持ちで一杯である。これまでの留学期間を通して、英語が上手でなくても、自分を表現しようという気持ちと行動力があれば、人々は理解しようとしてくれると実感した。



山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

これらの写真は「インターナショナルコネクト」という、様々な大学からインターナショナルスチューデントが集まり、交流するイベントでの様子である。左の写真は、このイベント行った日本文化紹介のパフォーマンスの様子である。一方で、右の写真はレクリエーションで、国籍、学年関係なく、初対面の人に対してもカラフルな粉をぶつけ合ったときのものである。このイベントを通して、自分を着飾らずに心から楽しめ、会話をする前から友達のように笑いあったのは初めての経験で、とても新鮮だった。このイベントを通して、仲良くなった別の大学の友達と連絡を取り合い、遊んでいる。人とのつながりのきっかけはとても些細なことから始まることもある。出会いを大切に一期一会の精神で人と向き合っていきたい。



この写真は、友人宅でのハロウィーンパーティーの様子である。皆、それぞれ思い思いの仮装をし、パーティーを楽しんだ。初めて、友達のフェイスペイントをした。パーティーはもちろんのこと、準備の時間も私にとって忘れられない思い出となった。アメリカのハロウィーンは日本と違い、大人から子供まで仮装に対しての抵抗がない。友達の履修していた授業では、ハロウィーンの日クラスのクラスに仮装をして出席すると、ボーナスポイントが加算されたという。ハロウィーン当日だけ盛り上がるのではなく、その1週間は、様々なハロウィーンパーティーが催され、その中には、学校が主催するパーティーもあった。



この写真はホストファミリーと過ごしたクリスマスでの 1 枚である。私のホストファミリーはとても親切で思いやりがあり、アメリカでの伝統的なクリスマスを家族の一員として体験させてくれた。絵本にあるような、大きなクリスマスツリーとたくさんのプレゼントが印象に残っている。驚いたのは、プレゼントは親から子供に渡すだけでなく、親戚が揃い、お互いにプレゼントを渡しあっていたことである。

2-2. 学業面

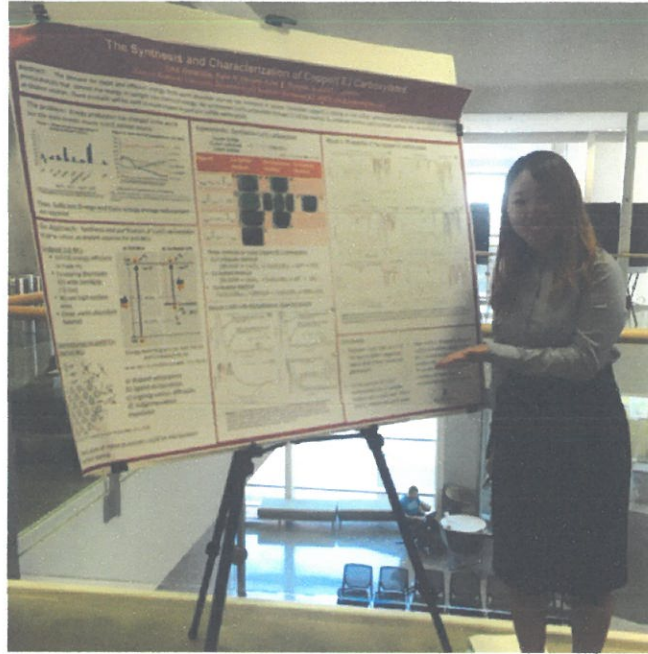
秋学期では、環境に適応させることと英語力向上を目標に履修登録をした。履修科目は、CHE 501C (CHE 701C と合同の授業で機能性材料化学)、ENG 095R (英語)、NFA 121 (料理)、AFA 202 (アフリカンアメリカンの歴史) である。始めのころは、料理以外の授業を楽しみと思えなかった。授業についていこうと集中しているが、内容を聞き取れず、発言もできない。頭の中に浮かぶアイデアはいつも日本語で、英語に変換している間に授業は次の話題へと移り変わっていった。つまり、授業についていけなかった。特に、CHE501C については化学部の先生の勧めで履修したものであったが、内容が難しく課題も多く、初日の授業で履修取り消しを決意するくらいだった。内容はエネルギー効率について教科書から学ぶのではなく、教科書を材料に自分で実験や環境問題の解決方法を考え、先生も交えながら討論する授業スタイルである。ディスカッション、プレゼンテーション、試験、レポートが課される。授業内容は興味のある分野で、授業スタイルもとても面白く、理解は出来なくても授業に参加したいという思いがあった。そのため、担当の先生に直接、自分の英語力の低さと自分の要望について相談をしに行った。その中で、CHE501C は、4 年生

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

で修士に進みたいと考えている学生が修士学生と一緒に受ける授業であるということが分かった。先生はとても優しく、私の要望を聞き入れてくださった。単位取得のためにCHE105(生物よりの化学基礎)に履修を変更したが、この授業は引き続き聴講することとなった。ENG 095Rについては他に留学生はおらず、学部生と一緒にの授業で四苦八苦していた。この授業では主に小説や随筆などの文章を深く読み取ることに重点を置いていて、ディスカッションをしたのちにエッセイを書くスタイルであった。NFA 121は、栄養について学び、調理実習でアメリカの料理を作った。初めてジャガイモの皮を剥く人や、熱いフライパンを触ろうとしている人もいたので驚いた。この授業を通して、アメリカで生活している学生の食生活を知ることが出来た。AFA 202については、奴隷制度など歴史の影の部分についてアメリカの学生はどのような観点を持っているのか興味があったため履修した。様々な資料を読み、レポートを書かなければならず、授業についていくのに必死であった。自分の気になるトピックを自主的に調べて発表する授業スタイルであったため、生徒一人一人の奴隷制度についての考え方の違いに驚いた。ボイスレコーダーを使って授業を聞き直し、授業後やオフィスアワーに先生に質問をしに行くなどの努力を続けた結果、聞き取りにもだんだん慣れ、提出物の確認やテストの日程確認を授業終わりに先生に聞かなくても把握できるようになった。また、クラスメートと一緒に課題に取り組んでいるときに、私の意見を求められることが多くなったのが嬉しかった。最終的には、秋学期に履修した全ての科目で最高評価をとることができてよかった。振り返ってみると、アメリカと日本の授業形式は異なり、日本は受動的でアメリカは能動的であると感じた。アメリカでは、個々の意見が重要であり、先生と生徒によって授業が成り立っている。授業中に疑問に思ったことはすぐに質問し、生徒が先生の意見を否定することに対してためらいを感じていないことが一番の驚きだった。相手がどんな立場であろうとも尊敬しあって、それぞれが意見を主張できるスタイルは勉強する上で最高の環境であるといえる。空気を読むことも大切だが、積極的に意見を交換しあうことで、自分に足りない部分を埋めるきっかけになるとともに、相互理解を深める。このことは、勉強面以外においても実感した。

春学期では、より実践的な授業を履修しようと考えていた。ピアノやヘルスケア、英語、化学セミナーの授業のほかに、太陽光エネルギーを化学エネルギーへと高効率で変換する技術に関する研究室に所属し、カチオン交換を利用した硫化亜鉛ナノクリスタルに対する銅の添加量をコントロール制御する研究に参加した。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書



この写真は、研究内容についてポスター発表をしたときの様子である。発表会では様々な分野の研究者や学生と情報交換をし、緊張したが充実した時間を過ごせた。英語力に自信がなくても、やりたいと思ったことを諦めずに努力し続け、アピールをすることでチャンスはやってくる。この精神を貫いてよかったと思えた瞬間であった。この授業を通して、ナノクリスタルの合成技術、分析方法のみならず、情報発信の仕方を学ぶことができた。

3. 学んだことを今後どのように活かすか

留学先での研究内容と帰国後の卒業研究は異なるが、本留学で学んだ英語力や科学的知識、コミュニケーション能力、発信力、協調性を今後の研究活動に活かすとともに、国際交流活動への参加、イベントの企画などを行っていきたい。

本留学終了後、Dean's list という成績優秀者リストに載ることが出来た。この留学で経験し学んだことは、私にとって何にも代えられない財産となった。学業面だけでなく、自信の視野を広げる貴重な経験をさせていただいた。「山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）」のご支援なしでは、私の夢であった留学は叶わなかった。そのため、この留学支援制度が留学を夢見る学生を救い、その夢を現実にする手助けをしたい。